



若あゆ



教師も子どもも共に学びを楽しむ！

校長 浅野 博一

令和8年度がスタートして1か月が経ちました。お子様のご様子はいかがでしょう。お子様一人ひとりには、それぞれの歩みがあります。…あせらず、子どもの心に寄り添い、「大丈夫。ありのままのいまの自分を大切に。」と温かく見守りましょう。子どもは、自分の道を自分の足で、必ず力強く歩み始めます。

現在の社会では、多様な道・多様な生き方が確保されているものです。私の教員生活のスタートは、越谷市立栄進中学校でしたが、中学3年生の担任をしていた若手の時は、生徒の自己実現のため、進路指導に無我夢中でした。昨年度、近隣の中学校長に進路相談の話を伺い、私が若手の頃と随分変わってきたことを改めて認識いたしました。

決して他の子と比べることなく、世界に1つだけの花を大切にはぐくんでまいりましょう。

4月。全市校長会が岸町の教育研究所で開かれ、終了後、岸町小に緑道を歩いて戻ってくると、4階の音楽室から「校歌」の歌声が聞こえてきました。あまりにも素晴らしい歌声に、吸い寄せられるように階段を上がり音楽室の中に入っていくと、6年生の子どもたちの歌声でした。どの子どもたちも素晴らしい表情をしていました。

また、4月23日（木）全校音楽朝会がありました。全校児童が体育館に集い、ミュージック委員会の5・6年生が壇上に上がり、司会進行も務めて、「校歌」と「はじめの一步」を岸町小の子みんなで歌いあげました。心が洗われるような子どもたちの歌声。子どもたちの美しい表情・澄んだまなざし。…そして、子どもたちを包み込んでいる岸町小の教職員。

改めて、私が見ることができない未来の社会をたくましく生きる子どもたちのために、岸町小の全教職員の力を結集していく決意を固めました。

誰一人取り残すことなく、互いの違いやよさを認め合い、その子らしさ・個性・よさが、太陽のように輝けるよう、全教職員で支援してまいります。



【学校薬剤師 白石先生からいただいた「ハナイカダ」】

岸町の子は素敵だなあって、思うことが多くあります。校長室で執務している時は、廊下のドア・職員室につながるドアを常にかけています。sola するむの子どもたちが校長室隣の小会議室で過ごす時は、小会議室につながるドアも開けています。

新学期がスタートして、私もふんばりすぎて、体調を少し崩し、こんこんと咳をしていた時のことです。休み時間、校長室の前を通りかかった5組の子が、「だいじょうぶ？」と声をかけてくれました。私は、「なんて心が綺麗で優しいのだろう」と胸がとても熱くなりました。

また、ある休み時間、廊下から校長室を覗き込んだ子が、「あっ！ハナイカダですね！」と左上写真の植物の名を言い当てた子がいました。4月当初、白石先生のお宅に養護教諭と共に御挨拶に伺った際、お庭に植えられていたハナイカダを花瓶に生けた茶室で、茶道のおもてなしを頂き、帰りにいただいたものでした。名を言い当てた子に「なんで知ってるの？」と聞くと「私、植物が好きなんです。」とのことでした。私は学生時代、北浦和公園の入口（北浦和駅に近い入口）に植えられている植物が「ナギイカダ」という植物で、左上の写真のように、「葉のような形の上に付いているのは、花です。花は枝に付くので、葉のように見えるのは実は葉状枝です。」と植物学の教授から教わったのを思い出しました。

音楽や自然をはじめ、この世界は感動に満ち溢れています。ゴールデン・ウィーク明け、子どもたちの心に再び火を灯し、元気いっぱい教師も子どもも共に学びを楽しんでまいります。